



マーシャルから Iakwe

第9号

Iakwe(こんにちは)

マーシャル諸島共和国には、「アミモノ」とよばれる工芸品があります。日本語の「編み物」と同じ意味です。

アミモノは、キメジとよばれるココナッツの葉をひも状にしたものを使って作られます。キメジで作られるアミモノは、「花冠」「耳飾り」といった体に身につけるものから「おぼん」「マット」といった壁飾りや生活の中で使われるものと様々な種類があります。さて、今回は「アミモノ」について詳しく紹介していこうと思います。



着色されていないキメジ

現地の生活に結びついている「アミモノ」

教会やパーティーで身につけたり、お祝い事の贈り物としてプレゼントされたりする「アミモノ」。現地の方の生活になくはないアミモノは、現地の方の収入の一部となっています。

特に離島では産業が少なく、多くの女性がアミモノを作って収入を得ています。作られたアミモノは、アミモノショップで買い取りされるのですが、商品なので形が悪いと買い取りしてもらえません。離島の女性たちは、アミモノの買い取り日に合わせて飛行機や船で首都マジュロまで移動するそうです。



ウォツジェフラワー



アミモノは種類も豊富で、ピアス、首飾り、ウォツジェフラワー、花冠、おぼん、うちわと様々です。特定の離島でしか取れない貝を使っている場合もあり、同じアミモノであっても値段が全く異なります。

一つ一つ手作業で作られているので「同じデザインには出会えない」ところがアミモノの魅力の一つでもあるなと感じています。

魚やウミガメといったモチーフのアミモノも！

実際に体験したからこそ分かる、1つの アミノノを作り上げる大変さ・・・

マーシャル諸島共和国にはいたるところにアミノノショップがあり、アミノノ体験をすることができます。

私も任期中に「ネックレス」「フラワー」作りに挑戦しました。フラワーづくりでは、形を作った後の針金にキメジを編み込んでいくのですが、均等に編み込んで行くのが難しく苦戦をしました。



着色したキメジ



形を整えた針金にキメジを
編み込んでいきます



作成時間は、約 3 時間
不格好ですが、なんとか
完成しました！

ウォッジェフラワー



ウォッジェフラワーは、「ウォッジェ」という離島の名前がついています。第二次世界大戦時に日本軍が残した電線をどう活用していくか、考えられて作られたものがウォッジェフラワーだそうです。

首都マジュロのお店で売られているウォッジェフラワーは、大体が\$3。形や大きさによって、値段も変わります。

離島では、フラワー5つでお米と変えてもらえるのだそうです

離島ウォッジェの海

マーシャル諸島共和国の魅力は、なんといっても透き通るほどの美しい海。

海辺に行くと、いつも子ども達が服のまま飛び込み泳いでいます。

任国の植物も海も自然全てが子ども達の遊び場となっています。

